

横浜歴史博物館(仮称)

平成5年3月

第2号

開館準備ニュース



建設中の横浜歴史博物館(仮称)とセンター北駅(平成5年1月撮影)

横浜歴史博物館(仮称)の

開館に向けて



財団法人 横浜市ふるさと歴史財団

理事長 石原 俊

横浜市域の原始から主に開港期ころまでの歴史・文化財に関する調査研究や普及啓発を行うため、平成四年十月一日に財団法人 横浜市ふるさと歴史財団が業務を開始したのと同時に、私が理事長に就任することとなりました。

これまでも仕事等の関係で横浜とのかかわりを持っておりましたが、理事長就任にあたり、あらためて横浜の歴史についていろいろと調べたところ、想像していた以上に奥深く興味深いものがあるように感じられ、ますます横浜に魅力を感じるようになりました。今後、市民の皆様と力をあわせ、横浜のいにしえを探索し、歴史を学ぶ楽しさを享受してまいりたいと存じます。

本財団の事業は多岐にわたりますが、その中でも平成六年度秋以降の開館を予定し、現在着々と建設工事が進展している横浜歴史博物館(仮称)は、財団の中核ともいえるべき施設で、その管理運営は財団の中心的な事業の一つです。今後、横浜歴史博物館を拠点として、単に横浜という一地域にとどまることなく、広く世界という視点から横浜の歴史を位置付けていくように努めていきたいと考えております。微力ではありますが、理事長として誠心誠意努力して参りたいと存じますので、今後とも市民の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

横浜歴史博物館(仮称)

通史展示の概要

横浜歴史博物館(仮称)の常設展示室は、二万

年にわたる横浜の歴史を、米館者の方々にわかりやすく理解していただくためのものです。常設展示室に入ると、まず横浜の歴史を十五分ほどの映像でまとめた「歴史旅行ゾーン」をみていただき、その後で原始Ⅰ・Ⅱ、古代、中世、近世、近現代の六つの展示室を右回りでみることになります。

中央には、皆様のご質問にお答えするレファレンスコーナーや情報機器がおかれたスタディサロンがあります。このように、横浜歴史博物館では映像・展示・情報機器などを用いて、総体的に横浜の歴史を理解していただけるよう工夫しています。

「歴史旅行ゾーン」やスタディサロンの概要については、次号以降に紹介することとし、今回は通史展示の概要について紹介したいと思います。

横浜歴史博物館の通史展示は、「横浜に生きた人々の生活の歴史」を基本理念とし、それを具体化するものとして「変わる横浜の形」「村に生きる人々」「人と物の流れ」という三つの要素を考えています。また、各室の中央には、時代の雰囲気を感じられるように、その時代を象徴する約三メートル四方の大型模型をおきます。現在予定している各室の「展示項目」は次のとおりです。なお、☆がついているものは大型模型です。

(原始Ⅰ)

☆地層のはぎとり・南堀貝塚遺構復元模型
大地に刻まれた最初の人々の足跡・豊かな森と海に生きた時代・縄文時代の人と物の流れ

(原始Ⅱ)

☆大塚・歳勝土遺跡遺構復元模型

弥生時代のはじまり・弥生時代のムラ・弥生時代の人と物の流れ

(古代)

☆都筑郡衙想定復元模型

谷戸を切り開くムラ・古代のムラ・郡衙をめぐる人と物

(中世)

☆六浦湾地形復元模型

陸の道と海の道・横浜のくらしとさまざまな信仰・開かれゆくムラ

(近世)

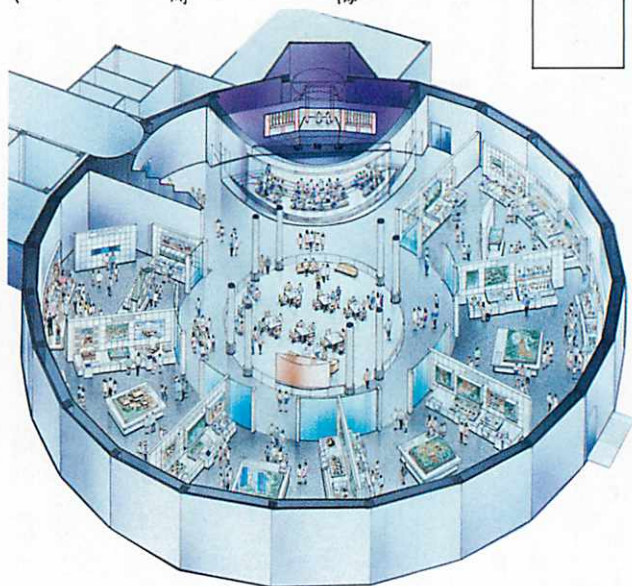
☆茶屋・桜屋・想定復元模型

新田開発と横浜・むらのくらし・街道と溪

(近現代)

☆勸工場(横浜館) 想定復元模型

関内・関外・村のくらし・変わる横浜の姿



●インタビュー● 心のふるさと横浜

庶民の生活や技術に目を向けてほしい

平野 邦雄

(東京女子大学名誉教授・財団理事)

一月に開かれた横浜市ふるさと歴史財団の「收藏資料展」を拝見して、新しくできる博物館のため担当の皆さんが一生懸命やっておられるのがよくわかりました。ただ、開館まではまだ時間がありますので、今後より一層の努力を期待したいと思います。

開港以前の横浜は、大名の城下町ではなく、また江戸幕府の代官所が置かれていた訳でもありません。江戸時代以前においても、金沢文庫を除けば、全国的にそれほど特筆されたものが多い訳ではありません。しかし、そうした特色のなさを逆手にとって歴史をふかく見つめることができるのです。普通、大名の城下町であった市町村の博物館では、その大名家ももっていたコレクションが、展示や収集品の中心となっています。横浜にはそういうものはありませんから、他の博物館がいままでやっていないところを特色にできる訳です。

私が注目すべきと考えるのは、実際の生活や産業を担っていた庶民や職人たちです。こういう人々についての研究は、近年ようやく行われるようになってきましたが、まだまだ研究が遅れているのが現状です。特に、横浜には、神奈川・保土ヶ谷・

戸塚という東海道の宿場があります。一つの市町村の区域内に、三つの宿場があるのは全国でも珍しいのではないのでしょうか。ですから交通史に関する資料については積極的に収集していくべきでしょう。すでに東海道の屏風や絵巻などが集められています。各種の道中着などの風俗資料についても収集してほしいものです。

この他、職工図や職人尽絵、産業図巻や名産図絵、あるいは指図や書付・道具類といった庶民の



持っていた技術の多様さを示す資料についても注目する必要があります。江戸時代、横浜では吉田新田をはじめ多くの新田が開発されていますが、それにはそれなりの測量技術や土木技術が必要とされていたはずです。近代に入って西洋の科学技術を比較的小規模に受け入れることができたのも、江戸時代における庶民の技術の高さがあったからだだと思います。そうした技術の高さや普及の度合いをうかがえるようなものも収集していくことが必要でしょう。

(談)

史跡紹介

稲荷前古墳群

稲荷前古墳群は、緑区大場町の谷本川をのぞむ丘陵上にあります。昭和四十二年に発見され、昭和四十二・四十四年に発掘調査が行われました。調査の結果、稲荷前古墳群は四世紀から七世紀にかけて造られた前方後円墳二基、前方後方墳一基、円墳四基、方墳三基の計十基の古墳と九基以上の横穴墓から成り立っていることがわかり、管玉・ガラス玉等の玉類、鉄刀・鉄鏃等の武器類、金環土師器、須恵器などが出土しました。

また、昭和五十六・五十七年には前方後方墳の学術調査が行われ、この古墳が、横浜市区では最も古い時期に造られた古墳の一つであることが明らかになりました。



稲荷前古墳群

稲荷前古墳群は、この地域を支配した首長とそれに連なる人たちが古墳を造り続けた墓所であったと考えられます。様々な形の古墳があるため「古墳の博物館」とも呼ばれました。昭和四十五年に県指定史跡となり、一部が古墳公園として保存公開されています。

コラム

神奈川湊と

うみぶね
内海船

神奈川湊は中世からその存在が確認される湊で、近世に入ると東海道や神奈川道など陸上の道と結び付き、江戸湾（現在の東京湾）有数の湊として発展しました。この時代、神奈川湊は全国各地と交易を行っていましたが、その実態を知る資料はほとんどありませんでした。最近になって、愛知県知多郡内海を拠点に活躍した内海船の研究が進み、近世後期の内海船と神奈川湊の交流実態が明らかになりました。内海船が



神奈川湊に運んだ物資は米や麦、大豆、荒物、干鰯、糠、塩などでした。これらの物資のうち、たとえば、糠は神奈川一町田一八王子のルート（神奈川道）で、江戸近郊農村地帯に、塩は神奈川一江戸湾一利根川河口一利根川をのぼるルートで、北関東の内陸部に、運ばれました。このような物資の流れは、江戸を中継する従来の交易ルートを無視した新たなもので、江戸時代の公的な流通体系に大きな変化をもたらすこととなります。横浜が開港する以前、神奈川湊は内海船などを介し、全国の海上交通の拠点として重要な位置を占めていたのです。

インフォメーション

「財団収蔵資料展」、盛況のうちに終わる

平成五年二月十日から十六日まで（十四日は休み）、横浜市民ギャラリーにおいて、財団法人横浜市のふさと歴史財団発足を記念して、「財団収蔵資料展」を開催しました。本財団にとってはじめての大きな事業であり、どれくらいの方々が来場して下さるか期待と不安が入り混じった複雑な気持ちで開場の日を迎えました。幸い、六日間で二千七百人余りという予想を上回る多くの方々に来場していただき、展示物の説明や来場者の皆様への対応などで大忙しの毎日でした。また、会期中には、多くの方々にアンケートにご協力をいただきました。皆様からいただいたご意見は、今後の財団や博物館の運営に生かしていきたいと考えています。



開館へのあゆみ

平成4年10月1日（財）横浜市のふさと歴史財団 業務開始
平成4年10月19日 財団第1回理事会
平成4年11月20日 利用者協議会
平成4年11月27日 財団第1回評議員会
平成5年2月1日 資料収集審査委員会
平成5年2月10日 横浜市のふさと歴史財団発足記念「財団収蔵資料展」を横浜市民ギャラリーで開催
平成5年3月18日 市営地下鉄3号線が新横浜駅からあざみ野駅まで開通する

編集後記

表紙の写真からもおわかりのように、横浜歴史博物館（仮称）の建設作業は、平成五年度末の竣工に向けて順調に進んでいます。また、三月十八日には、横浜市内地下鉄が新横浜駅から田園都市線のあざみ野駅まで延長され、開館後の交通の便も確保されました。地下鉄のセンター北駅とセンター南駅の間では、歴史博物館の建設風景をかいま見ることができると思っています。

このように開館に向けての環境整備は着々と進んでいます。中身の方もそれに負けないようにと担当者一同奮闘中の今日この頃です。

横浜歴史博物館（仮称）開館準備ニュース
第二号

●発行／平成五年三月三十一日

●編集

財団法人 横浜市のふさと歴史財団

〒二二一 横浜市中区万代町一―二―四

電話〇四五（六四）二二〇四・二二〇六